

とうかい



病院の理念 最高の誠意 最善の医療



公立学校共済組合 東海中央病院



今月号の表紙は、当院で開催した腹腔鏡手術セミナーの様子です。

応募のあった各務原市内の中学生に、外科医師の仕事を体験していただきました。

手術室で行った模擬手術体験など、目をキラキラ輝かせながら楽しそうに参加する姿がとても印象的でした。

表紙写真募集のお知らせ

皆さんによる各務原市内の風物の写真を広報誌の表紙としてご紹介しています。

次号の募集については、10月下旬までの予定です。たくさんのご応募をお待ちしております。

東海中央病院のホームページが新しくなりました。
こちらまでご覧ください。

<https://www.tokaihp.jp>

INDEX

パーキンソン病について 2/6

第一神経内科部長 水谷 泰彰

第1回「腹腔鏡手術セミナー」を開催しました 3/6

私たちは、東海中央病院ACLSチームです！

看護師長 村瀬 由実

メンタルヘルスセミナーを開催しました ... 4/6

新任医師紹介／お知らせ 5/6

公立共済やすらぎの宿 6/6

ホテル グランヴェール岐山／HOTEL ルブラ玉山／プラザ洞津



パーキンソン病について

第一神経内科部長 水谷 泰彰

【パーキンソン病とは】

振戦（ふるえ）、動作緩慢、筋強剛（筋固縮）、姿勢反射障害（転びやすさ）を主な運動症状とする病気です（図1参照）。我が国では人口10万人あたり100～150人くらいいるとされ、神経内科の病気の中では認知症の一つであるアルツハイマー病に次いで多くみられるといわれています。時に若い方での発症もみられますが、多くは50歳以上で起こり人口構成の高齢化により増加傾向です。

パーキンソン病は、脳内で中脳という部位の黒質ドパミン神経細胞が減少して起こります。この減少の原因は現時点ではわかっていませんが、ドパミン神経細胞の中に α シヌクレインというタンパク質が凝集して蓄積することが関連しているといわれています。

【パーキンソン病の検査について】

診察の結果パーキンソン病が疑われる場合は、パーキンソン病に似た症状を起こす様々な症候群（パーキンソン症候群）ではないことを確認することが重要です。パーキンソン症候群の中には、外傷性、薬剤性（一部の胃薬や精神科の処方などによるもの）、脳血管性（多発する脳梗塞などが原因となるもの）、あるいは進行性核上性麻痺や多系統萎縮症といった難病などがあります。そのため、詳細な問診や血液検査に加えて、脳のMRIやドパミン神経の減少を確認するための脳ドーパミントランスポーターシンチ（図2参照）、または心臓のMIBG心筋シンチなどの検査を行うことが重要になります。また、治療薬への反応や病気の経過を見ていく過程で病名が判明してくることもあります。

【パーキンソン病の治療について】

治療の基本は薬物療法です。現時点では根治するための治療法はなく、ドパミン神経細胞が減少するため少なくともドパミンを補います。そのためL-DOPA（レボドパ）といわれる治療薬が基本になります。その他にドパミンアゴニスト・抗コリン薬・アマンタジン・ソニサミド・アデノシン受容体拮抗薬などの治療薬を、年齢や症状によって組み合わせ使用します。患者さんの状態によっては、副作用の方が強く出て継続が困難となる薬もあります。年齢が比較的若く症状が進行期に入っていない場合、定位脳手術とい

う手術療法が選択肢になることがあります。運動症状に対しては治療法の開発・研究が進み、発症後でも10年以上介助を必要としないでいることが可能となってきています。

【非運動症状について】

これまでパーキンソン病では前述したふるえ、動作緩慢、小刻み歩行などの運動症状に治療の焦点が置かれてきました。一方で最近の調査や研究により日中の眠気、幻覚（特に幻視）、気分障害（抑うつなど）、痛み、嗅覚の障害、便秘や頻尿や立ちくらみなどの自律神経症状など様々な運動症状以外の症状（非運動症状）が存在し、患者さんの生活の質に大きな影響を与えていることが判明してきました。これらの症状は日常の外来ではなかなか注目されることが少なく、現時点では治療法も確立していないため今後の課題となっています。

参考資料「難病情報センター」
<http://www.nanbyou.or.jp/entry/169>



図 1

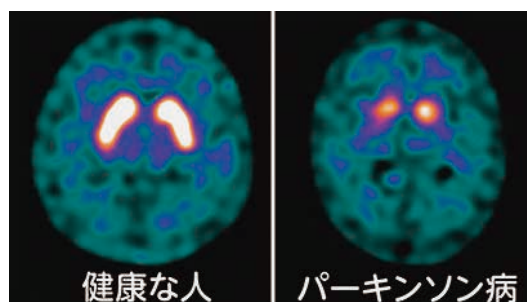


図 2

順天堂大学医学部附属順天堂医院 提供

第1回

「腹腔鏡手術セミナー」を開催しました

日 時 平成28年8月21日(日)

場 所 東海中央病院 大会議室 手術室

参 加 者 各務原市内の中学生

体験内容
 ・ACLS(二次救命処置)体験 ・縫合糸による結紮体験
 ・内視鏡鉗子操作体験 ・3Dモニター内視鏡体験
 ・超音波凝固切開装置による模擬手術体験



「腹腔鏡手術セミナー」は、第一線で活躍する当院の外科医師をはじめとした医療スタッフとともに、実際に治療現場で使用する医療機器を用いて外科医の仕事を体験するセミナーです。外科手術を体験することで医師の仕事や医療に対する興味を抱く機会となり、一人でも多くの子どもたちが将来の医療を担う人材に育っていくことを期待し企画しました。各務原市内の中学生28名に参加していただきました。

開会式のあと、まずはACLS(二次救命処置)体験。スタッフによるBLS(一次救命処置)の実演指導のあと、胸骨圧迫やAEDの使用方法、不整脈の波形を見るなどの体験ほか、院内で急変があった場合のACLSの実演を見学していただきました。



およそ1時間のACLS体験の後には、全員が手術用ガウンを着用して手術室に入り、4つのグループに分かれて外科手術の体験です。

「縫合糸による結紮体験」ブースでは、手術用の針や糸を使用して縫合・結紮を体験。持針器で手術針を持ち、キズの模型を縫って固定します。持針器を持つ手に力が入り攣りそうになりながらも、みなさん上手に縫合できました。



「内視鏡鉗子操作体験」ブースでは、一人はカメラを持ち二人が鉗子を操作してビーズを移動させます。実際に目で見ながら操作するのと違い、モニターを見ながらの操作は距離感をつかむのが難しいのですが、すぐに感覚をつかみ、両手での操作に挑戦する生徒さんもいました。



「3Dモニター内視鏡体験」ブースでは、専用のメガネをかけて3Dで映し出されるモニターを見ながら鉗子を操作して輪ゴムを掛け替えます。サングラスのようなメガネをかけて真剣に操作する姿がとてもカッコいいです。



「超音波凝固切開装置による模擬手術体験」ブースでは、刃の部分1秒間に55,000回も振動する超音波メスを使用して、手術台に載せた鶏肉や豚肉を切開します。止血しながら組織を切り離す仕組みに興味津々です。



閉会式では、日比副院長から一人ずつ修了証が手渡され、腹腔鏡手術セミナーは終了しました。

始めは緊張した様子で遠慮がちだった生徒さんたちも、徐々に打ち解けて担当した外科医師やスタッフに質問するなど積極的に参加していただくことができ、最後には「とても良い経験ができた」「いろいろな機械が使って楽しかった」「将来の参考になった」といった感想が聞かれました。

本セミナーに参加したことによって医療に対する興味を持っていただけたのではないかと思います。東海中央病院では、今後もこのようなセミナーを開催していきたいと考えています。



私たちは、東海中央病院ACLSチームです!

看護師長 村瀬 由実

<ACLSチーム立ち上げの背景>

患者さんが急変した時の医療従事者による速やかな初期対応は、患者さんの救命率の向上に繋がるため、大変重要な技術です。当院では、新入職者(全職種)を対象とした、救急委員会主催による一時救命処置(BLS)講習会を、年2回開催しています。

しかし、一度講習会を受けただけでは確実な技術は身につかず、繰り返し行わないと技術を忘れてしまうと言われています。そこで、当院全体のBLSの技術を高め、二次救命処置(ACLS)に繋がりたいと、有志によるACLSチームを立ち上げました。

<ACLSチーム活動の準備>

立ち上げた当初は、医師2名、外来看護師3名、集中治療室看護師5名、臨床工学技士1名で開始しました。全く何もない状態でしたので、どのような形で始めたらいいかなど、話し合いを重ねました。研修に必要な物品も揃っていなかったため、まず病院に研修の意義を説明し、物品の購入を申請しました。指導するチームメンバーも技術を高める必要があるため、院外の研修に行き、各務原市内の応急手当普及員や、ICLSインストラクターの資格を取得しました。

<ACLS活動の実際>

目標は「医療従事者がACLSを標準的にできる」としました。具体的な活動としては、まずはBLSの技術を確実にできるようにしようと計画をたて、月2回程度講習会を行いました。平成27年度は、BLS講習会を11回開催し、医師・看護師など77名を対象に指導することができました。チーム活動として成功した要因は、何度も話し合いをしてお互いの意見を尊重し、共有できた

ことにあると思います。一人の力では出来ませんが、それぞれが考え行動してくれたお陰で形となり、実績を作ることができました。平成27年度は、病院長表彰をしていただきました。また、日本病院学会においても活動を発表することができました。



<新しい取り組み>

夏休みの企画として、7月24日には、職員の子どもを対象に、BLS講習会を開催しました。始めは子どもたちは恥ずかしがっていましたが、最後にはとても上手に胸骨圧迫ができるようになりました。

また、8月21日に開催した市内の中学生を対象とした腹腔鏡手術セミナーでは、胸骨圧迫やAEDの使い方を体験してもらいました。

BLSは、医療関係者のみが必要とされている技術ではありません。正しい知識と適切な処置の仕方を身に付けていれば、近くの人が急に倒れたり、窒息を起こしたとき、救急隊や医師へ引き継ぐまでの間に、誰でも行うことができます。

今後は一般市民の方への講習会を行っていきたいと考えています。そして、精力的に活動し、目標に向かってレベルアップしていきたいと考えています。



メンタルヘルスセミナーを開催しました

東海学院大学人間関係学部心理学科准教授 長谷川 晃先生にお越しいただき、「職場のメンタルヘルスとセルフケア」をテーマに、職員を対象としたメンタルヘルスセミナーを開催しました。

「まずは自分を知る」ということで、うつ状態を測定するBDI-IIと反すう(過去をむし返して自問自答を繰り返すこと)のしやすさを測定する質問用紙を記入して自分自身の状態を知ってから、抑うつ・うつ病について学び、その改善方法をご紹介いただきました。

気分の浮き沈みがあるのは自然なことですが、考えすぎず、落ち込みを早めに絶つことがポイントとのことでした。

参加者からは、「自分のメンタルに気付くことができた」「考えすぎないことが大切だと再認識した」といった感想が寄せられました。



新任医師 紹介



片岡 邦夫

内科医員(消化器内科)

7月より転勤して参りました、消化器内科の片岡と申します。その前は、研修医以来5年3ヶ月間、豊橋市民病院で働いておりました。環境がガラリと変わり新鮮な気持ちで連日過ごしております。皆様には慣れるまで色々な迷惑をおかけしてしまうかと思いますが、一步一步、精一杯努力するつもりですので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

小児科からのご案内

小児科では7月から平日は毎日、夕方診療を行っています。
曜日によって受付終了時間が異なりますので、お気を付けください。



	月	火	水	木	金
受付時間	17:00~18:00	17:00~18:30	17:00~18:00	17:00~18:30	17:00~18:30
担当医師	上野たまき医師	岐阜大学医師	上野たまき医師	岐阜大学医師	岐阜大学医師

午前の受付終了後から夕方診療開始までの時間帯も、急な発熱など際にはご相談に応じますので、小児科外来へお電話してください。

「世界糖尿病デーin東海中央2016」 開催のご案内

当院では11月16日からの3日間、糖尿病予防啓発イベント「世界糖尿病デーin東海中央2016」を開催します。この機会に多くの方に糖尿病について関心を持っていただこうと、糖尿病ケアチームが企画いたしました。

どなたでも無料でご参加いただけますので、お気軽にお立ち寄りください。

- ◇日時 平成28年11月16日(水)~18日(金)
9時15分~11時00分
- ◇場所 東海中央病院1階 待合ロビー
- ◇内容 血糖測定体験(先着120名/日)
医療スタッフによる相談コーナー
パンフレット配布
糖尿病に関連するパネル展示
- ◇申込み 不要
- ◇参加費 無料



血糖測定体験やパンフレット配布は数に限りがございます。お早目にご来院ください。

昨年の様子

東海中央病院では、近い将来発生すると言われている大規模地震の際、中継拠点病院としての機能を一定期間継続するための設備工事を行っています。工事車両の通行等ご迷惑をおかけしますが、ご協力をお願いいたします。

【工事の概要】

- ・1,200kw 自家発電機の増設
- ・発電機運転3日分の燃料貯蔵タンク増設
- ・受水槽の更新
- ・下水道貯留槽の設置

【工事期間】

平成29年7月7日までを予定しています

燃料貯蔵タンク地下埋設予定地▶



